

## 「第3回中之島4丁目再生医療国際拠点検討協議会」 会議要旨

1 日 時 平成29年2月16日（木） 午前10時から午前11時30分

2 場 所 大阪市役所 市会第6委員会室

3 出席者

- ・大阪府知事 松井一郎
- ・大阪市長 吉村洋文
- ・大阪府政策企画部長 山口信彦
- ・ 〃 政策企画部企画室長 吉田真治
- ・ 〃 商工労働部長 津組 修
- ・ 〃 商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課長 池田純子
- ・大阪市経済戦略局長 井上雅之
- ・ 〃 都市計画局長 川田 均
- ・大阪商工会議所常務理事・事務局長 児玉達樹
- ・ 〃 経済産業部長 中野亮一
- ・一般社団法人関西経済同友会常任幹事・事務局長 齊藤行巨
- ・ 〃 医療都市「関西」委員会委員長 更家悠介
- ・公益社団法人関西経済連合会専務理事 松村孝夫
- ・ 〃 産業部参与 瀧川一善
- ・国立大学法人大阪大学 理事・副学長 吉川秀樹
- ・一般社団法人日本再生医療学会理事長 澤 芳樹

4 議 題

- ・中之島4丁目における再生医療国際拠点のあり方について

5 議事要旨

### ■市長あいさつ

市長) 昨日、知事とともに万博の検討会に参加しまして、そこで日本の強みってなんだろうという話がありました。その中で日本が持つ強みとして、健康・医療の分野、これが非常に高いレベルにあり、とりわけ再生医療の分野については世界トップレベルにある。しかもそれが関西に集積している。これは日本の強みではないかという議論がありました。まさにその通りだと思っております。この大阪には、大阪大学、それから京都のiPS細胞研究所、神戸の理研もそうです。非常にトップレベルのものが大阪に集積しています。その中でこれから何が必要かと考えたときに、

基礎研究というのは非常に進んでいます、治験、臨床、そして産業化、その国際拠点が必要になってくるだろうと思っています。この中之島4丁目をこれらの中心地にしていきたい。この再生医療のレベルを高めていくこと、国際的にもトップレベルのものにしていく、これによってこれまでは治らないと言われていたような病気についても治療ができるようになる可能性もあります。色々な薬についても様々な可能性があります。この再生医療の分野というのは本当に可能性に満ちた分野と思っています。そしてそれがもう少し、あと一歩で花開く間近のところまで来ていると思っています。そういった中で、先ほど申し上げた臨床、治験、産業化といった分野について国際拠点が必要と思っています。そんな中で今回のこの検討協議会においては、世界トップレベルの再生医療の拠点を中之島に作るということで、民間の皆様、各関係者の皆様の知見を集結させて、この中之島4丁目をすばらしいエリアにしていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

#### ■議題 ・中之島4丁目における再生医療国際拠点のあり方について

川田) 日本再生医療学会の前回のご提案は、日本の拠点として一般的に再生医療の臨床拠点とはこうあるべきだろうというお話でありまして、今回はそれを中之島に落とした場合にどんな形になっていくかということをご検討いただきましたので、澤理事長の方からよろしくお願いいたします。

澤) 今日、知事、市長が初めてお聞きいただくということで、全体的に日本再生医療学会の考え方を踏まえて、この中之島にどういう機能を落としていただくか。私自身は日本再生医療学会の理事長の立場ですので、そういう考え方からご説明をさせていただきます。【資料1により説明】

川田) どうもありがとうございました。

それでは今の日本再生医療学会からのご提案も踏まえて、事務局側で資料2「中之島4丁目再生医療国際拠点」基本方針(素案)をまとめておりますので、これも説明させていただいて、意見交換に移りたいと思います。

事務局) 【資料2により説明】

川田) どうもありがとうございます。

そうしましたら、澤理事長のご説明と事務局側の説明も含めまして、ご質問やご意見あれば自由をお願いします。

知事) スピード感を持ってやるのが大事。今は、日本は再生医療分野でトップだが、世界が追いかけてくる。今日、吉村市長とこの会議に出ているのは、具体的に色々なことを決めるという思いです。そうでないと決まりませんから。市長と私がこういう方向でやろうということで、関係者の皆さんと意見交換をしたいと思っています。

澤先生とも話をしていますが、これをやるための財源をどうつくるかが一番の問題点です。SPCにしても、民間にやってもらったら、月々このSPCに返済するという形になります。今の時点では、再生医療センターが一举に初年度から大きな利益を上げられる状況にはないと思います。研究ですから。だから、例えば、オープンから5年、10年の間を、もちろん研究成果をあげていただいて、最終的には自立して回っていただくのは当然ですけど、やはり本気でやろうとすると、最初の5年、10年の間をどのような形で運営をできるかということを考えるのが我々の役割かなと思っています。

財源、このためのお金を見つけるということですが、単なるファイナンスでは、担保がありません。担保はもう澤先生や山中先生の頭の中にあるものだけで、土地についてはリースを吉村市長が考えてくれているので、まずはそこから。大阪市としてどう考えてもらえるのか。5年間は据え置いて、5年後からのみにしますとか。具体的にやらないと前に進まないと思っています。

**市長)** 事業計画、事業スキームをどうするかが一番大事で、まずハードとソフトを分けるということですが、ハード自体は不動産賃貸業になります。大家業になるわけですから、一定の利回りが必要になってきます。なので、利回りを回すためにはどのくらいのお金が必要になってくるか、どのくらいの賃料を見込めるような施設とか病院を誘致するという、上物の事業計画をまずスピード感をもって決めていかないといけないと思います。

もう1つお金がかかるのは、結局土地。大阪市の市有地は原則売却です。できるだけ高く売却する、大阪市全域でそうしています。できるだけ高く売却してその財源を住民サービスとか借金返済に充てるというのが大阪市の大きな基本方針なので、基本的に売却です。ただ、今回のように、本当に高度に政策的な目的があり、公共目的があり、大阪でここしかないというものについては例外を検討する必要があると思っています。例外とは、売却というスキームで今回の再生医療のスキームが成り立たない、最初にお金もものすごくかかるので、それでは無理だというのであれば、売却でなくて、一定の事業スキームを確定した上での賃貸というのもあり得ると思います。賃貸であれば賃料の考え方は、本来適正賃料、純粋な商業目的で貸す賃料で、その賃料は大阪市民の住民サービスに回ります。それで今回の事業スキームが成り立つのかを考え、これが最初の5年、10年なかなか成り立たないということであれば、そこから減額するなりということを検討しなければならないと思います。最終、金額をいくらにするのかは、全体の事業スキーム、お金の話はちゃんと計算した上で検討しなければならないと思っています。今回は大きな政策目的として、世界にここしかない再生医療の拠点を作れば、最終的には大阪市民にも還元されると思いますし、その土地の価値というのは非常に高まってくると思いますので、これは大阪の経済成長にもプラスになるし、大阪市民にもプラスになる、このように判断しています。そういった意味では例外中の例外というのをこの土地は考えていく必要があると思っています。

それに加えて、皆様が汗をかかないとできない事業だと思います。運営についても国にいろいろ求めていかなければならない。これはやはり大阪府と大阪市もそうですが中心となって、国家

戦略特区など国に色々なお願いをしなければ、事実上立ち行かなくなると思います。研究機能については、そういったことを自治体で、これは大阪府が中心となると思いますがお願いすることになると思いますし、日本再生医療学会には今回基本コンセプトを示していただきましたけど、これはかなり深度を深めていただいて、民間の方にお金を出しやすくなるような、そんなことを考えていただかないといけないと思います。民間の方が儲かるというのであれば、積極的に投資していただくことになりますので、民間の方からは、ぜひ投資いただいて。この底地については、大阪市はコンセプトを持っていますが、土地を使ったり、上物を運営したりしていくというのは民間の方にやっていただくというのが前提になると思います。その事業スキームを作れるのかどうなのか、その事業スキームを作るにあたって、土地はこうすべきだというのがあれば、大阪市は極めて柔軟に考えようと思っています。上物については国の協力を得るとというのが前提になるでしょうが、成り立つスキームを作れるかは、日本再生医療学会、民間の皆様と同じようにお力が必要です。

そして、何より人ですので、先ほど知事からもありましたように、再生医療の分野というのは人で成り立っている分野です。これは澤先生だけでなく大阪大学、大きな人的資源がありますので、大阪大学に人的資源を全面的に協力いただかないと無理な話になります。大阪大学には全面的な大学としての人的支援の協力をお願いしたいと思っています。これらが全部マッチしないと成立しない事業になると思います。

**知事)** 再生医療の分野は日本がトップですけど、山中先生の話聞いていて、山中先生が今一番やっているのはマラソンすることだとよく言われます。それは、やはりいかに寄付を集めてくるかのところで、そのところがギリギリでは研究の成果が出ないと聞いています。民間の皆様も投資については、100パーセント固いリターンだけを求められても厳しいのではないですか。だから、再生医療ファンドのようなものを作り、それとファイナンス組み合わせる、そういう方向性でないとなかなか実現しにくいのではないかと思います。

**川田)** 国際センターの運営に関しては、日本再生医療学会の知見も入れながら、検討していかないといけないと思いますが。

**澤)** 今タイムリーにAMED事業で、年間2億円、3年間で、ナショナルコンソーシアム事業というのを、日本再生医療学会で行っています。ただ、3年間で全部できるわけではなくて、大事なのは3年後以降どうするかというところです。今そこを熟させているのですが、知事・市長がおっしゃってくださったような形で受け皿を作っていただいて、私はやはり半官半民である程度お金が回るというか、企業化できれば、その方がサステナブルであり、民間で運営できると考えています。だけど、一番のポイントは、再生医療の産業化のところで、市販後調査を必ずしないとイケないところです。条件・期限付き承認で早く承認してしまうがゆえに、かなりの期間にわたって、正確なデータを出して、最終承認を得るための仕掛けのところは、どの企業も大変なと



がいつまでお金を出してくれるか、2億ですか？3億ですか？あと10億のうち7億はファンド作ってやりますか？というのはなかなか時間がかかって難しいということで、このところを丁寧にやっていかないといけないと思います。そういう意味で資料2の右上ですが、民間デベロッパー等でSPC作るというところ、ここを特に企画段階では大変丁寧にやらないと、今、大阪府、市でIRの出展業者を丁寧に聞いておられると思うが、やはり聞き取りながらやり取りをする、企業ともやり取りをする、そういった中で事業スキームをちゃんと作って、その上でファイナンススキームをやりあげていくということが非常に重要です。民間デベロッパーの方がただ単に商業目的で入ってくると意図が崩れていくので、私としては、ちゃんとプランを作るところと、それを受けてちゃんとやっていただける、そういう刷り合わせが必要だと思っていますので、この辺のところを事務局が今後、検討していただければ有難いと思います。

最後に、“うめきた”との関連の資料ですが、一番下に理研と阪大、京大、これはコアでいいのですが、関西の医療系大学などを入れていただくと良いのでは。どの程度入るかは、これからの研究ですが、イメージとしては、みんなでまとまってやっていただきたいと思うので、意見として申し上げます。

**川田)** 今、更家様がおっしゃったようにビジネスモデルに入らない部分をどうビジネスとして成立させていくか、2種類に色分けされると思います。そこについてはヒアリングもしたいと思いますし、一方で、経済界には産学連携での企業の方の関心度合いを、できるだけ把握していただきたい。そのために澤先生から、こういうことや今後こんなことが再生医療分野として発展していくし、イニシアティブの研究として進めていきたいというのを出していただきながら、刷り合わせしていただき、どの程度のボリューム感でご関心があるかというのを把握していただきたいと思っています。先週のアゴラ構想推進協議会で、大阪大学の産学連携のオフィスがパンパンでもう入らない状況であり、企業としては、再生医療分野に関しても非常に関心が高いとお聞きしております。潜在的な企業のニーズを掴んでいった上で、それをスキームに落とし込むというのを事務局としてやっていきたい。

**知事)** マストは病院。それを誰が責任をもって交渉するのか。それを澤先生にお願いしたい。

**澤)** 色々な考え方があると思うが、先ほど、更家さんがおっしゃったように病床が300～500床いるというのは、普通の病院の経営上ではマストだと思うが、どんな病院を持ってくるでもいいものなのか。300～500床をこの土地だけで完結するのも難しいのかもしれないし、自分でも利益を生みながら、かつ、内容とか再生医療をサポートしてくれる病院という意味で、いい病院が来てもらわないと、なかなかうまく成り立たないですね。

**市長)** 船頭が多かったら方向性も定まらずよくないと思います。再生医療に関しては、澤先生が知見もあり、今後再生医療をどうしていくべきかという方向性もお持ちでありますし、大阪大学にも

所属されておられます。詳細な事業スキームをはじくという作業は専門家が入らないとできませんが、大きな方向性は、澤先生に頭をとってもらって進めていくという方向でいいのではないかと思います。

**知事)** ベッドの数は、今、大阪では余剰はない。そこが一番の問題です。特区で新たにベッド数を国に認めさせるのか、これは非常に厳しいと思います。所管省庁が厚労省なので、新規のベッドを作るということについては、了解をとれたとしても3～4年かかる話になってしまいます。そうならば大阪の中でベッドを探すしかない。病床規制を大阪府は厚労省と協議しているの、澤先生と府の健康医療部において、3ヶ月くらいで答えを出すようにしてもらえますかね。

**川田)** 知事のご指示がありました、今日は府の健康医療部はおられませんが、澤先生とタッグを組んで、よろしく願いいたします。

**更家)** その中で、例えば、臨床病床は非常にコストがかかるので、ある部分その病院を区域として面倒を見ていただいて運用するというのも考え方なので、あまり線引きして考えると非常にコストがかかる点があるので、この辺ご考慮いただきたいのと、ある部分、国際化ということで考えれば、大きな傘は、病院とするとしても、国際的な部分も一部でも誘致できれば、これはこれで国際化に資すると思いますので、ご検討いただけないかなと思います。

**澤)** 現時点の私の考え方で申しますと、周りに住友病院や関電病院があつて、その連携が大事だと思います。突然に大きな病院が来て、例えば患者の取り扱いということではなくて、やはりベッドも上手く活用させていただきながら、連携することがまず基本だと思います。

それから、いきなり最終ゴール的なものを作るのは難しいと思います。徐々に発展するとしたら、例えば、5丁目の土地もありますし、少なくとも段階を経て、上手い形で軌道に乗り出すと世界からも患者から来られるようになります。いきなり世界の患者を呼ぶベッドを作ってもなかなか難しいかもしれないので、そこうまく皆様と話をしながらやるのがベストではないかと考えています。

**市長)** 研究機能の運営以外に、関連企業・産業化を目指す企業など店子からの賃料の支払いがあつてはじめて大家も回るわけです。関連企業にとって魅力のあるところであれば、企業も入って積極的にやっていきたいと思います。だから、ハードとソフトに分けるのであれば、大家業と中に入っている賃貸業と、賃貸業からどれだけお金を回収できて、研究機能でお金がないところをどうしたらよいか、トータルで考えないといけないと思います。

**澤)** おっしゃるとおりです。場所があつて不動産業で入るというのではなくて、ここにきたら企業にとって何のメリットがあるかと。そのメリットは、先ほど申し上げましたように、市販後調査が

上手く回るとか、企業にとって自分たちだけでは大変なところを、ここに来たら再生医療製品が出やすくなるとか、そういう仕掛けをどう作るか。今、中身を日本再生医療学会がコンソーシアム事業で考えていますので、つながるとそこは企業にとっても来たくなるような場所になるのではないかと期待しています。

**池田)** 先ほどの知事の病床規制の発言で補足させていただきたいのですが、確かに大阪府内すべてが病床過剰地域ということは一般論としては間違いなくて、むやみにベッドを増やすことはできないということは大前提です。ただし、ここに「国家戦略特区による病床規制の特例」とあえて書かせていただいているのは、すでに国家戦略特区の初期メニュー、国の方から提示されたメニューの中で、何でも病床ではダメですが、世界最先端、非常に高度な医療に適用する病床の場合は、規制外で増やすことができるというメニューがございます。大阪では実は適用例は1例も今のところはございませんが、近隣で言いますと、理研の高橋先生のアイセンターが30床ということで認められたところです。東京では、6、7件、全国で10件程度実績がございますので、このプランでありましたら十分にそこはクリアできると考えております。

**知事)** それは最先端の医療のためのベッド数は増やせると言う件だが、今言っているのは、本来の一般の医療、病床が何百かいるという話です。

**市長)** あと、人がものすごく大事になってくると思うのですけれど、そういった意味では大阪大学にご協力お願いしたいと思います。

**吉川)** この中之島地区に再生医療のセンターができるというのは、京都大学、理研、大阪大学、の再生医療に強い3拠点がありますので、ここにセンターが設置されましたら大阪大学としても人的支援、関連の再生医療をやっている診療科たくさんありますので、そこへ連携して人材がそこへ行行って再生医療を行うということは大阪大学としても考えておりますし、もちろんこれを推進したいと思っております。

それから産学連携につきましても、再生医療関連の企業が今吹田キャンパスに先ほどのリストのとおり共同研究講座とかたくさん設置していただいておりますが、もう一杯でありまして、ぜひこのセンターができましたら再生医療の関連の企業に、ここに講座を作っていただいて、研究、それから企業の商品を産み出していくということで、ぜひ連携したいと思っております。

**市長)** ありがとうございます。本当にお金だけでなく、人がものすごく大事になると思いますので、大学が本気をいれていただかないと成功しない事業であると思っておりますので、そう言っていただけると心強いです。またよろしく申し上げます。

**川田)** よろしく申し上げます。では、関経連の松村様。

松村) 私どもとしましては、やはり財務基盤がしっかりした、澤先生もおっしゃられたように持続的なスキームが絶対必要だと思っていて、そのためにはスケジュールに書いてはございますけれど、具体的な検討、やはりハードなものがどれくらいで、どれくらいの施設があったり、人材があったり、そこら辺の検討を進められるのは非常にいいと思いますので、我々もしっかり協力をさせていただきたいと思います。

そういう具体的なスキームの中で、一番大事なのは先ほども出ましたけれども、再生医療国際センター。これがうまくいけば、さきほど賃料の話がありましたけれども、他の企業も集まってくるから、ここがしっかりとした、自由診療の話も先ほど更家様からございましたけれども、そことうまいことスキームを組んでいくということが一番大事かと思っておりますので、またこれからもよろしくお願ひします。

それから、先ほども出ましたけれども人材の話は私どもも思っていて、アカデミアの方の絶対な協力がいることと、それとやはり神戸の医療センターもそうですけれど、自治体の皆様、それから国のAMEDの協力が絶対ありますから、そこらへんが一番の大きなキーポイントかなと思っております。私どもも、この構想の具体化には協力し、できる限り知恵を出していきたいと思っております。色んな案が出てくると思っています。

そういうところと、先月の“うめきた”の検討会の時に国からありましたけれど、“うめきた”とこちらをどうするのだという話もあったので、資料3としてお配りしておりますけれど、そこも、きちっと国に説明していくとこれから戦略特区も進みやすいところもあると思います。やはり“うめきた”の方は新産業創出、交流の場で、澤先生もおっしゃられましたように実践の場がここの中之島だと思います。ここらへんも国に都市計画上も説明をして進めていただければいいなと思っております。やはり一番大事なのはセンターの運営基盤。それをまた色々と勉強していきたいと思ひます。

川田) ありがとうございます。“うめきた”との関連がでたので、資料3は関経連様の方で勉強された結果ですけれど、事務局の方で資料番号のついていないものですが、中ノ島と“うめきた”の連携について、ペーパー1枚作っております。先ほど更家様もおっしゃいましたが、資料3の下に書いてある部分でCiRA、理科研と記載しているのは、日本再生医療学会がお配りになった資料で、3つだけの施設の記載があったので同様に記載しております。当然、中ノ島はこれを超えて色々な方々との連携が広がっていくという前提で考えていただいたら結構だと思いますし、“うめきた”に関してはテーマ的にライフデザインイノベーションという非常に幅広い中に再生医療というのも当然含まれております。中ノ島は再生医療のいわゆるウェットな場所、研究の実践の場であるということに対して、“うめきた”は上に記載しておりますように、知と人材の交流という非常にテーマ幅広いのですけれど、人材のネットワークとかニーズをマッチングして新しい研究・開発プロジェクトを組み立てて行くという企画提案プロジェクト組成の場というような機能のすみわけかなと思ひて整理させていただいております。

それでは、大商の児玉様。

**児玉)** 先ほど知事、市長からスピード感を持って進めるようにというお話があって、まったく同感でございますけれど、建物をどう作っていくのかというのが非常に大きな問題だと思っております。先ほど澤先生からもございましたように条件期限付き承認制度の魅力で産学連携の企業が集まってくるということももちろんあると思いますが、そういう産学連携の企業の入居だけで回るのかどうかということもございますので、そういうことを含めて不動産ビジネスのプロの検討が必要じゃないかと思っております。こういう素人の経済団体が集まっても限界がございますので、府市のイニシアティブでそういう不動産ビジネスのプロが参加する場を作ってください、たたき台を作ってくださいと思います。その場で産学連携企業だけの収益で成り立つのか、あるいは容積率を増やしたりして、そこに別の収益施設を入れていくようなことを考えなくてはいけないのかなどを含めて、たたき台をご検討いただけたらありがたいと思う次第でございます。以上です。

**川田)** 私、個人的に言いますと、まずは再生医療国際センターというコアのところを決めながら、どこまでが事業としての限界があるか見極めた上でのプラス $\alpha$ の議論かなと思っております。あまり一般の不動産ビジネスとこれが混在してからスタートするのではなくて、進め方としてそういう手順かなとは思っているのですけれど。澤先生、その辺はどうですか。

**澤)** もちろん箱が最も大事であります。コンテンツとしてまず何がいくか、そしてそこにどのように連携できるか、アゴラ構想で大阪大学が横にあるとしたら、その連携も、どんな風に産学連携なり人材育成が広がるかという仕組みも我々としては非常に重要だと思っております。

こういうところがどれだけお金を産むかということも皆様と一緒に考えさせていただかないとなかなか積み上げていくことができないので、早く中身についての議論をさせていただきたいですし、まちづくりなり中身のコンテンツと一緒に考えてくださる人がいてくださらないと、僕らもできない。それをつなぐような役割の方をぜひお願いしたいなと思います。

**川田)** はい、わかりました。

**知事)** 事務局、府市一体でそれをやる準備を作らなければならない。総事業費どれくらいなのか、そういうところを算出して、じゃあそれを再生医療ファンドというのを作るのか、ファンドを作るならファンドの専門家はどういう形なら投資を呼び込めるか、これを具体的に作らなければならない。ファンドが出していけば、多分経済界の皆様にもご協力いただけると思います。すぐ目の前の利益じゃないけれど、多分 30~40 年くらいして成果が出たときには化けますよというファンドになる。

澤) 海外の成功例、サンディエゴがあれだけの地域で、3~4兆円のお金の回りになっているとか、もちろんサンフランシスコもですけど、ボストンとか。アメリカでたくさんの特許があって、ヨーロッパもありますけれど。そこも参考に、もちろんそのままというのは無理かもしれませんが、どのように仕掛けられているかというのは、ぜひ調べていただきたいと思います。

川田) はい、わかりました。更家様。

更家) 再生医療国際センターということなのですが、例えば再生医療というものをどう考えるかと。例えばロボットの手で脳の神経をつなぎましたと、これちゃんと動きますと、最近研究進んでいますよね。離していても動くと、これは再生医療ですかとかですね。自分の細胞を育てて自分に戻します、これ再生医療です。他家細胞を、人の細胞を入れます、これ再生医療です。この辺も先週アゴラの議論でもやったのですが、この辺の位置関係を、この再生医療というものの位置づけはぜひ大阪大学の中とか日本再生医療学会でもやっていただくと、そういう方向感の中で産業も色々考えることがあると思うので、これをぜひお願いしたいと思います。

澤) アカデミアとしては再生医療というのは、私再生医療学会の立場ですので、このように言っていますけれど、医療を根本的に考えると別に再生医療でなくてもいいのです。とにかく患者さんが治ればいいのか、難病を治すことができればいいのかを考えた場合には。その先には薬があったりロボットもあったり AI もあったりというように広がるような、きっかけとして再生医療国際センターを、今回スタートさせていただき、そこから大きな輪になっていけば、本当に相乗効果で非常に大きな広がり、展開を見せることができるかなと私自身も思っています。

川田) はい、ありがとうございます。その他何かご意見は。

知事) 大体いつごろまでにまとまりますか。

津組) 再生医療国際拠点の計画の関係は府の方でやっていますので。本日の素案、とくに3月末までの案の確定というのが、もう方向性出ていますので、この方向性でいいということでありましたら、素案などをすぐにまとめてそれで国の方に色々働きかけていくと、そういうアクションをしたいと思います。特にこの方向性でご異議ないということであれば、それ前提に早急に計画をどうしていくかというのは検討したいと思います。

川田) それでよろしいですか。我々、事務局的に言うと、夏が国の予算の要求のタイミングでもありますので。

山口) 今日いただいたご意見を聞いて、行政的に詰めていくというのは非常に難易度の高い話だと思います。

っています。スピード感をもってやれというのが大前提。その中でこの新しい再生医療国際センターの研究を支える、持続的に研究を支える、そういう事業スキームを作れと。結局は採算がとれるところを見極めて、病院と賃貸なのか、病院はどうなのか。あるいはセンターをどれだけの規模で動かすのか。当然機能と人の教育というのは澤先生なり吉川先生の方から協力していくよという力強いお言葉をいただいたということですが、実際これを絵に落とししていくというのはかなりハードルが高いので、我々スピード感を持って一緒にやらせていただきたいのですが、当然引き続き経済界のご協力、色々な知恵を、先ほども不動産のプロを入れたらどうかとか、研究を新たな目で展開するにはどういうビジネスモデルがあるのかとか、澤先生を中心に色々な形で提言いただいてまとめていくということが必要ですので、できるだけスピード感を持って我々やっていきたいのですが、ぜひその点ご協力をお願いしたいと思います。

**知事)** ファンドのファイナンスとの組み合わせ、経済界の皆様で専門家の方いらっしゃったら、色々指導をしてもらおうというか、アイデアを出していただけるということは可能ですよね。

**更家)** いっぱいおられますけれど、関経連あたりにご推薦いただいたらどうですか。

**知事)** 推薦をお願いします。

**松村)** ちょっと同友会と相談して。もちろん今回の具体化計画、ハードが決まらないと企業の方もなかなか話に乗ってこられないので、そういう意味では協力させていただきたいと思います。先ほど出ていましたけれど、再生医療という間口をできるだけ澤先生がおっしゃられたとおりひろげていただくと、企業の方も創薬だけでなしに色々な機能、健康医療の話もありますけれど、間口を広げていただいて色々な形の方からも参画しやすいような拠点になればいいなと思っております。

**知事)** あと資金集めの専門家の方も色々協力して下さい。

**松村)** それはここで私がどうこう言えませんので、皆様と一緒に勉強させていただきます。

**市長)** 事業スキームで、特にお金周りのところは、土地の部分は大阪市の土地というのはあるのですが、上物をどうやって回していくのか、どういったハードを作って、採算性がどうなるのかというのは、やはりこれは民間で検討をお願いしたい。民間の方がどういう理由でお金を出していくのかといった仕組みは、経済界の方もいらっしゃいますので、そこは分けて検討をお願いしたい。どのくらいのものがあるのかというトータルコーディネートは澤先生ができると思うのですが、そこのお金周りのところ、事業スキームなどは、計画の早い段階から民間の方に入っていて、プロの目で見ていただく必要がございます。

**松村)** ファンドだけでなく法人でやるやり方もありますし、色々やり方があって、私もまだまだ勉強不足なのですが、ファンドだけでなく色々なスキームがあると思います。そこらへん検討して、やはりサステナブルな組織にならないと。医療施設をお持ちのものですから。そういう意味では色々な法人、財団法人とかいろいろな形、国の方も拠出していただけるような形とか。今はファンドだけに決めつけるのではなく、色々なところ勉強するのが、将来を含めていいかなという気がします。個人的な感想です。

**市長)** まずは上物というのは民間でどこまでできるのかという絵を描いて欲しいと思います。底地の部分は極めて柔軟な考え方で検討していこうと思いますが、大阪市・大阪府、行政として事業に入っていくという、極めて高度に民間的な事業に入っていくというのは、これまで大阪市が数々事業失敗してきていますので、僕は民間でできることは民間で徹底的にやってもらうということが大事だろうと思っています。

**知事)** 我々の役割は公的な研究に対しては、府民・市民の皆様に還元できるわけですから、成果があれば、そういう部分に対して公的役割は果たしていけると思うのです。いわゆる先進、再生医療の研究費に対しての補助とかそういうものに対しては、国も前向きです。これはやはり公的役割もあると思うのです。建物を建ててリースするところに我々が、というのは違うと思います。

**市長)** 建物を作っていく上で、こんな建物が必要であり、容積率がこれぐらい必要ということであれば、容積率を決める権限は大阪市にあるので、容積を緩和するなど、そういう公的な協力はできるが、そこで事業に入り込んだら、これはあまりいいことはないと思います。結局、民間も公が入っていたら公に頼るのが嫌という話になる。僕は民間でできるということに対して、公が事業に直接当事者として入っていくということに対しては否定的な考え方を持っています。

**松村)** 建物というよりも再生医療国際拠点の運営主体の方の話をしていたつもりなのですが。すみません、ちょっと私の言葉足らずでした。産業界・経済界もできる限りの協力、知恵を出すのをこれから頑張っていきたいと思いますので、それはよろしくお願いします。

**川田)** はい、ありがとうございます。本日、色々とお協議いただきまして、今後は、運営主体の設立に向けてスピード感を持って進める。この運営主体というのは澤先生中心に病院を含めた議論を詰めていく。器づくりについては施設の規模などを決めた上で、経済界の方のいわゆるファイナンスのスキームなどを、色々知恵をいただきながら、協議会で検討を進めていく。スケジュール感は夏を目標に決めていくと、以上でよろしゅうございますか。

一同) 了解。

川田) それでは事務局に返します。

事務局) そうしましたら、これもちまして本日の議事を終了させていただきたいと思います。次回の日程については、あらためてご連絡させていただきます。